

式 辞

例年になく早い春の訪れで、咲き誇った桜も、はや葉桜となり、緑が目にあざやかな、今日この佳き日に、PTA会長 北村 辰一（きたむらしんいち）様の御臨席を賜り、令和三年度福井県立三国高等学校の入学式を挙行できますことは、本校にとりましてこの上ない慶びであります。

ただ今、入学を許可しました134名の新入生のみなさん、入学おめでとう。保護者の皆様、お子様の御入学、おめでとうございます。

本校は、1909年(明治42年)創設の坂井郡立女子実業学校を前身とし、今年創立113年目を迎えた、輝かしい歴史と伝統のある、地域に根ざした学校です。

校訓は『心高かれ』。

2005年(平成17年)に新たに制定されたこの校訓は 戦中戦後をこの地で過ごした著名な詩人、三好達治作詞の本校校歌の歌詞から制定されました。

『教育目標』は、「高い志を持って自律的に行動し、地域や社会の発展に貢献できる人を育成する」としています。高い志を持ち、自分の能力を最大限に伸ばし、それを地域や社会のために活かすことができるようになってほしいという願いをこめて設定されました。

新入生の皆さんも、校訓に込められた意味を感じつつ、新型コロナウイルス感染拡大防止のための「新しい生活様式」を意識しながら、充実した学校生活を送ることを期待します。

皆さんがこれから高校生活を始めるにあたって、心にとめてほしいことを二つお話しします。まず、一つは、「自ら学ぶ姿勢を身につけてほしい」ということです。

教えられることから自ら学ぶことへ、知識や技術を与えられるのを待つのではなく、自ら求める姿勢を身につけてほしいのです。

生涯にわたって様々なことを学び、進むべき方向を定めていくことは、世の中の価値観が大きく転換し、予測が困難なこれからの時代を生きる皆さんにとって、欠かすことのできないことだと考えます。

自分の世界を広げ、見識を高めるための学び方や学んだことを生かす力を身につけてください。

もう一つは、「自らの行動に責任を持ってほしい」ということです。

自分自身をしっかりと見つめ正しく理解すること、自分で考えること、自分自身で判断し決めること、そしてそのことに責任を持つことを日常の習慣とし

てほしいと思います。

高校への入学は「自ら進んで学ぶ高校生」、「自らの行動に責任を持つ高校生」としての生活の始まりです。

新入生の皆さんが高校三年生になる令和五年には、すでに新しい法律、民法が施行されており、成人年齢が満十八歳となり、高校三年生のうちに、皆さんは成人となるのです。

大人の自覚を持ち、成人としての責任を負えるよう、意識して高校生活を送りましょう。これからどう学ぶのか、その後の人生をどう生きるのかを考え、行動することが大切です。

われわれ教職員も、皆さんにとってこの3年間は人生の基盤となる重要な時期であることを認識し、しっかり支援していく覚悟です。

三国高校は昨年度より、文部科学省『地域との協働による高等学校教育改革推進事業』の推進校に指定されています。

地域の資源に新しい価値を見だし、地域を活性化するプロジェクトの実施を通して、未来をつくる人材を育成する探究学習に取り組んでいます。

取り組みの様子は、新聞、TV等の報道や中学校にお送りした三高NEWSでご存じでしょうか。

地域におけるさまざまな社会体験は、「答えのない課題に対して、自分で考え、自主的に体を動かして取り組む経験」となります。

学びの場を学校から地域に広げることで、生徒は、今の学びは未来へつながっていると実感し、また、「自分らしく」社会に貢献できることで、より一層成長すると感じます。新入生の皆さんも、この活動に是非挑戦して、進路の選択や生きる力の育成につなげてください。

結びにあたり、本校が地域に信頼される学校として、伝統を守りつつ、さらに輝いていくために、学校と保護者の皆様との密接な連携、相互の信頼が欠かせません。ご家庭におかれましても、学校の方針をご理解の上、お子様の基本的な生活習慣、将来の目標などについて、一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。式辞といたします。

令和三年四月七日

福井県立三国高等学校長 上山 康一郎